

スタート START

～私は農業を選びました～

皆さんは、市内で新たに農業を始める人が毎年どれくらいいるかご存じですか。市農業振興課によると、平成24年度の新規就農者数は17人で、これは過去5年間でいちばん多い数です。

数多くの職業の中から農業を選んだ皆さん。どんな思いを胸に、いま農業に取り組んでいらっしゃるのでしょうか。

そこで、今年度新規就農した坂上裕紀さんと中川由美子さんに、農業を選んだ理由や農業にかける思いなどについて、話をお聞きしました。



さかうえ ゆうき
坂上 裕紀 さん
(五和町手野・20歳)

おいしいみかんを多くの人に

実家は祖父母の代から続く農家で、不知火やあまくさ晩柑などの果樹2・2haを栽培しています。家業を継ぐと決めたのは、中学生のとき。父の姿を見て「いつしよに農業がしたい」と思ったからです。荅明高校の園芸科学科、県立農業大学の果樹コースで農業について学び、今年3月に同大学を卒業してすぐに、就農しました。



◀ 収穫したみかんを
確認する坂上さん

って、家業をしっかりと守っていきたいです。そして、おいしいみかんを作って、多くの人に食べてもらいたいです。

農業の元気は “天草の元気”



市の基幹産業のひとつである「農業」。私たちが生きていくためにはなくてはならない産業であり、“命をつくる”産業といっても過言ではありません。

そこで今号では、市内で農業をがんばっている皆さんを紹介합니다。

有明町小島子でみかんの栽培を手がける坂本弘喜さん・ぬい子さん・健一さんご家族。
「今年のみかんも上々のできですよ!!」

サトウキビ栽培を天草で



中川 由美子 さん
(有明町下津浦・45歳)

私は、生まれも育ちも福岡県です。福岡では飲食店を経営していたり、農業とは無縁でした。ただ、食や健康に関心があったことから、「40歳を過ぎたら農業」という思いがあったんです。

し、現在は借り受けた農地15アールでサトウキビを栽培するほか、野菜づくりにも取り組んでいます。12月下旬には、いよさとうきびの収穫・製糖です。どんな黒糖に仕上がるのか、とても楽しみにしています。

そんな中、夫が趣味でサトウキビを作っていたこと、そして天草にある黒糖の製糖技術を身に付けたと思ったことがきっかけで、天草への移住を決意。昨年9月に移住した。天草は海や山が近くにあり、周囲の皆さんもとても温かく、私が思い描いたとおりの暮らしです。天草に来て、ほんとうによかったと思っています。